

トルコ共和国の近代化における新首都建設の意義
- Lörcher, Jansen, Jaussely, Brix 案の議論を通して -

Modern City Planning Skills and New Capital Construction in Republic of Turkey
-Focusing on Lörcher, Jansen, Jaussely, Brix's plans-

04M43183 土田哲也
Tetsuya Tsuchida

指導教員 土肥真人
Adviser Masato Dohi

ABSTRACT

After the independence in 1923, Turkish government introduced Western system and technology to modernize its own society. The new capital, Ankara was constructed as a part of such modernization policy and city planning skills brought by foreign urban planners was also accepted. The purpose of this study is to grasp the modern city planning skills from the adaptation process to traditional town in Turkey, and to think over the significance of the new capital construction in the modernization of Turkey. The findings are as follows: 1) We referred to the documents of those days to clarify the process and plans of the new capital construction. 2) City planning skills accepted in Turkey achieved to build a vast new city area, but pre-modern space and society still remained in the city heart of Ankara. 3) Through the construction of new capital Ankara, it was successful in elimination of previous space control systems and administrative machinery to provide modern ones.

1. 研究の概要

1.1 研究の背景

トルコ共和国は 1923 年の建国以来、西洋を規範とした新しい制度や技術を導入して、旧来の体制を一新しようと試みる。そうした近代化政策の一環として、新しい国家像を象徴する新首都の建設が行われた。首都建設にあたっては、初代大統領 Atatürk(1881-1938)の要望に応える形で、外国人専門家により都市計画案の作成がなされた。彼らの計画案はトルコの政府官僚、政治家といった人々たちが判断、解釈したのちに受容され新首都の建設は実行に移されていった。建国から 5 年という短い期間に 2 度の都市計画案の提示が行われ、その都度西洋の技術を受容し、最終的に外国人専門家とトルコ人の協働により実施案を作成した新首都アンカラの建設の過程は、トルコ近代化の過程を鮮明に表すものである。

アンカラの都市計画史の概略を【表 1】に示す。1924 年 Lörcher 計画は一部を実施したのち放棄され、新たな計画のために 1928 年にコンペが開催された。ドイツ人建築家 Jansen が優勝、1932 年に実施案が作成され実行に移された。

表 1 アンカラの都市計画史

年	計画	制度・組織
1923		トルコ共和国成立 アンカラに首都が移される
1924	Lörcherの首都建設計画	アンカラ市当局設置
1925		583号法令(土地収用法)
1928	アンカラ首都建設計画コンペ	アンカラ開発局設置
1930		都市法、公衆衛生法
1932	Jansen計画の実行案作成	
1955	トルコ人計画家による 第二次首都建設計画	
1969	第三次首都圏開発計画	アンカラマスタープラン局設置

1.2 研究の目的

本研究ではアンカラ新首都建設に際し外国人専門家によって計画案、実施案の作成が行われた 1924 年から 1932 年までを対象として、都市計画技術移転の変遷を概観したのち、1)アンカラにおける外国人専門家の手による都市計画案の詳細 2) 外国人専門家が作成した計画案を実行に移すまでの

過程を把握し、技術を輸入する側、輸出する側の双方から捉え、トルコ共和国の近代化におけるアンカラ新首都建設の意義について考察することを目的とする。

1.3 先行研究

本研究に関連する先行研究としては、アンカラの都市構造や都市計画に関するもの^{1,2}、トルコの近代化に関するもの³、都市計画技術の移転に関するもの⁴などの研究が行われている。しかし、アンカラ新首都建設に関して都市計画技術の移転という視点から検討したものや、外国人専門家およびトルコの近代化を牽引する政治家や官僚の活動双方に焦点を当てて、その過程を追ったもの、国の近代化に関連して考察を行った研究は見られなかった。

1.4 研究の構成と方法

2 章では、近代都市計画の誕生からの世界的な都市計画の展開を概観する。3 章では、首都建設を実行・計画する組織の編成、都市計画案の評価の基準、計画実行の実態を把握することにより、新首都建設計画実行体制の整備を、都市計画技術を輸入する側の視点から捉える。4 章では、文献からアンカラに対して発案された都市計画案を把握し、外国人専門家による都市計画技術の展開を明らかにする。5 章ではアンカラ新首都建設とトルコの近代化についての考察を行い、第 6 章で結論を述べる。

2. 都市計画思潮の世界的展開

西欧における近代都市計画の誕生以降、外国人専門家が都市デザイン・計画を行った 22 都市 27 の都市計画案【図 1】を対象として都市計画思潮の世界的展開を概観する。

2.1 都市計画技術を輸出した外国人専門家

近代都市計画技術の移転に主要な役割を果たしたのは、イギリスやフランスの都市計画家であった。イギリスは居留地の建設や改造、あるいは植民地での都市計画の策定を他国に先駆けて行っており、都市計画技術の輸出に先鞭を付けたといえる。それに対してフランスの周辺国に対する近代都市計画の輸出は比較的遅く始まった。フランスユルバニスト協会

対象領域	都市計画の展開																																																																																																										
	都市近郊							都市の一部							都市全体							都市全体+近郊						都市全体と周辺都市																																																																															
目的	都市計画の展開																																																																																																										
	都市計画の展開																																																																																																										
	都市計画の展開																																																																																																										
	都市計画の展開																																																																																																										
	都市計画の展開																																																																																																										
	都市計画の展開																																																																																																										
第1期(1861-1912) 都市の一部の改良と新市街建設											第2期(1913-1920) 既存市街地を無視した新市街形成					第3期(1925-1945) 都市全体の改良とそれに付随する新市街形成					第4期(1946-1960) 広域都市圏の整備と新都市の建設																																																																																						
都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年	都市名	計画者	国籍	年																																																																																
1	漢口	不明	英 1861	8	青島	不明	独 1899	15	スマラン	Karsten	蘭 1919	22	重慶	Jansen	米 1946	2	横浜	Brunton	英 1866	9	ハルゼロナ	Jaussely	仏 1903	16	ハノイ	Hebrard	仏 1925	23	台北	中村綱	日 1946	3	銀座	Waters	英 1877	10	台北	後藤新平	日 1905	17	フロンペン	Hebrard	仏 1925	24	ババネシュウル	Koenigsberger	仏 1948	4	日比谷	Bockmann	独 1886	11	キャンベラ	Guriffin	米 1912	18	上海	Grunsky	米 1927	25	フェス	Ecochard	米 1948	5	ラングーン	Montgomery	英 1897	12	ニューデリー	Lutyens	英 1913	19	台北	小野栄作	日 1932	26	チャンディガル	Le Corbusier	仏 1951	6	マニラ	Burnham	米 1898	13	フェス	Prost	仏 1915	20	フロンペン	Desbois	仏 1937	27	イスラマバード	Doxiades	希 1960	7	ハルツーム	Kitchener	米 1898	14	アデレード	Reade	新西 1917	21	ハノイ	Pineau	仏 1943

図1 都市計画の展開

のメンバーによって都市デザインが行われた後、1940年以降彼らの計画に対して批判がなされ、都市の再デザインが行われた。トルコは、第一次大戦の敗北により植民地を失ったドイツにとって、当時都市計画技術を輸出できる唯一ともいえる国であった。

2.2 都市計画の目的と対象範囲

1860年漢口居留地の建設から1960年イスラマバード新首都の建設までの1世紀の間の、西欧の外国人専門家による周辺の国々への都市計画技術の輸出は、計画の目的や計画範囲に着目すると4つの時期に分けられる。4つの時期とは都市の一部の改良と新都市建設を行った第1期(1861-1912)、既存市街地とは分離された新市街を形成した第2期(1913-1920)、都市全体の改良とそれに付随する新市街を形成した第3期(1925-1945)、広域都市圏の整備と新都市の建設を行った第4期(1946-1960)である。トルコ共和国の新首都アンカラの建設は第2期から第3期への移行期に行われたものである。

3. 計画実行体制の整備

3.1 計画実行組織の編成

アンカラ新首都建設の過程で、1924年にアンカラ市当局が、1928年にはその中にアンカラ開発局が設置される【図2】。これらは都市空間を計画、整備、管理し、社会的諸制度の執行機関である行政機構であり、組織の構成や職務の内容に対して中央政府の強い統制を受けた。同時に、これらの組織がアンカラに作られたことは、同様の組織をトルコ国内の他の都市にも誕生させ各自に開発計画を作成させるためのさきがけとしての意味を持っていた。オスマン朝末期のアンカラは在地の有力者もおらず、市当局という新しい組織を都市社会に挿入することが容易であり、このことはアンカラが首都として選ばれた理由の一つとして考えられている。

1924-1926	1927	1928
アンカラ市当局	アンカラ市当局	アンカラ市当局
公園局	公園局	公園局
科学局	科学局	科学局
道路支局	道路支局	道路支局
建設支局	建設支局	建設支局
地図支局	地図支局	地図支局
		アンカラ開発局

図2 アンカラ市当局の組織の変遷

3.2 Lörcher 計画の実行とその計画の放棄

1924年に策定されたLörcherの都市計画案を受けて、1925年に土地収用に関する法令が制定される。同法令を巡る国民議会での答弁では、トルコの政治家からかつてワクフ Vakıf 制度が管理していた都市空間を、市当局が一元的に管理することが主張されたほか、新たな都市計画技術を導入すること、都市計画を新市街だけでなく旧市街に対しても適用するこ

とが求められた。Lörcher 計画の適用は道路や広場など近代的な空間装置をアンカラの都市空間に挿入した。その一方で、土地投機や旧市街の無計画な発展、市街地の不足といった問題が生じ、Lörcher の計画は適用の中止を余儀なくされ、新たな都市計画案が求められた【図3】。

3.3 首都建設計画コンペ案の選定

アンカラ首都建設計画コンペ審査委員会の16の選考基準は1)近代的な空間装置の整備 2)既存都市施設の配置 3)秩序ある開発と住宅の保証 4)計画の適用可能性の4つに分類される【表2】。これらの選考基準には、Lörcher 計画実行の過程で把握された問題点を克服するために必要なことが盛り込まれていた。当初アンカラ首都建設は、近代的な国家にふさわしい都市を建設する事を目的としていたが、Lörcher の計画で扱われていなかった新たな都市計画技術を取得すること、秩序ある開発を行うこと、適用可能な計画を策定する



図3 Lörcher 計画適用の様子(1926年)

表2 コンペ案の選考基準

近代的な空間装置の整備	既存都市施設の配置	秩序ある開発と住宅の保証	計画の適用可能性
<ul style="list-style-type: none"> 公園、湖、広場 運動場 下水道 街路と敷地の整備形態 街路の方向と状態 都市的美学的要素 工業地区 	<ul style="list-style-type: none"> 市場 鉄道駅と鉄道路線 屠殺場 墓地 	<ul style="list-style-type: none"> 旧市街の解決 新市街の解決 政府役人や公務員の住居 労働者街区と住居 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の適用可能性



図4 アンカラ首都建設計画案

ことが新たな目的に加えられていたことが、審査委員会の選考基準より明らかとなった。

近代的な空間装置はモスクなど旧来の都市施設の機能の一部を付与され、これら都市施設の意味を減衰させた。しかし、かつてワクフ制度によって運営されていた宗教施設、慈善施設は都市計画によって管理されることは無く、また都市計画の枠組みに編入しようという試みも無かった。

3.4 Jansen 計画の実行

アンカラ首都建設計画コンペで優勝した Jansen の都市計画案は、1932 年に実施案を作成するまでに変更が加えられた。旧市街の一部を凍結保存したことが主な変更点である。トルコの近代化を主導する人々が当初思い描いていた都市空間の刷新は、完全な形で実現することはなかった。旧市街の一部を更新し、またその周辺の荒地に新たな都市空間を誕生させることには成功したものの、アンカラ城周辺の一角は、近代化や計画的な都市開発の対象から外されたのである。アンカラ旧市街を保存することはつまり、そこに根付く旧来の社会構造が生き残らせる空間を残すことを意味した。

4. トルコへの都市計画技術の展開

4.1 オスマン帝国期の都市改良技術の取得

トルコにおける都市計画技術の受容は、共和国誕生後に突如として始まったことではなかった。オスマン帝国が西洋化を進めるために行ったタンズィマート改革期に外国人専門家を通して、街路の直線化・広幅員化や煉瓦造建築への移行など都市空間の改良が行われたのがその端緒である。しかし、当時は火災の被害にあった地区の復興を主としていたために空間変更の範囲は都市内の一部に留まり、都市全体を構想・デザインするような計画ではなかった。

4.2 Lörcher の首都建設計画

アンカラに対する初の都市計画案である Lörcher の計画を近代都市計画として評価するために、1)街路計画 2)緑地計画 3)その他衛生施設 4)土地利用 5)既存市街地の取り扱いを基準として分析を行う。用いた資料は参考文献 1-4 である。

4.2.1 Lörcher について

アンカラへの遷都が行われた 1923 年、Carl Christoph Lörcher はイスタンブールのトルコ建設株式会社で勤務していた。アンカラ首都建設計画と同時期にオスマン帝国の古都ブルサやユーゴスラビアでも仕事をしている。

4.2.2 Lörcher の計画概要

Lörcher の首都建設計画【図 4】では a)近代的な都市空間の整備に最も重点が置かれている。街路に関しては旧市街の西縁をかすめる南北方向と南縁を通る東西方向の二つの街路を一等街路として都市の主要な軸としている。旧市街住宅地区内の街路は往来のために使われる主要街路とは異なり、敷地を建物の建設に適した形に整え、住宅に光や風を確保するために整備される。その他近代国家を象徴するモニュメンタルな空間である広場や公園、市民の体力の増進を目指して運動場の整備を計画していた。また、b)都市美観の向上も大きな目的であった。地区を区分してそれぞれに建物の階数を制限すること、屠殺場や刑務所等の迷惑施設を都市の外側に配置することが計画されていた。広場や公園は都市美観を形成するものでもあった。

4.3 アンカラ首都建設計画コンペ

Lörcher 計画を一部適用したのちに新たな都市計画案の必要性を感じたアンカラ市当局は、1928 年にアンカラ首都建設計画コンペを開催する。コンペの参加者は 1910 年ベルリンの計画設計コンペで優勝したドイツ人建築家 Hermann Jansen、同じくドイツ人建築家の Joseph Brix、1903 年バルセロナ都市計画コンペで優勝した Leon Jaussely の 3 人である。アンカラ首都建設計画コンペに提出された 3 つの案を、Lörcher 計画と同様の基準で分析をする。分析に用いた資料は参考文献 5-9 である。

4.3.1 Jansen の計画概要

Jansen のアンカラ都市計画案【図 4】の特徴は a)アンカラ城を街の中心として位置付けること b)公衆衛生の向上を図ること c)空地进行を市域内にふんだんに取り入れること d)計画の持続可能性を考慮することの四点にまとめられる。a)に関しては城の周辺に七つの広場を配置し城の眺望を確保することが、また c)のために建築の階数及び建蔽率を規制することや下水道網を整備することが計画されている。さらに彼は都市開発の経済的な問題にも触れ道路工事を最小限にとどめるような街路網整備や都市の発展を考慮した段階的な下水道網整備のプロセスを明らかにしている。Lörcher 案で散見された旧市街住宅地区内の街路整備には触れず、一等及び二等の主要幹線道路のみを計画している。

4.3.2 Jaussely の計画概要

Jaussely 案【図 4】は a)街路と広場の関係など都市の形

表3 4者の首都建設計画案の比較

	街路計画	緑地計画	その他衛生施設	土地利用	既存市街地への関与
Lörcher (1924)	・東西、南北方向の一等街路を配置しこれを都市軸とした ・暮盤目状、放射同心円状の街路網を整備する	・装飾としての広場を都市に配置。 ・体力増強のための運動場を整備。 ・河川及び並木道で、広場、公園を結ぶことにより緑地帯を形成	・ダムの再整備を行う ただしその目的は都市景観の向上のため	・市街地を中心地区、高密開発地・低密開発地の3つに分けて、建築物の階数を規制した ・工場を鉄道駅南東側に配置 ・迷惑施設を都市の外側に配置	・旧市街にある神殿やモスクは重要な遺産であり、周辺を含めて整備 ・街区内の細街路を抜本的に改良する
Jansen (1928)	Lörcherが設定した都市軸を一等街路として整備 採光、交通流の整除を目的とした基礎街路の配置を行う 放射、環状の街路を巡らす。 街路整備は予算を抑える	休息・体力増強のために空気を配置する アンカラ城を望む広場を旧市街に整備する 緑地を確保して、都市の密度や配置をコントロールする	下水道網を整備する 雨水と汚水はそれぞれ別に輸送することで開発費用を抑える 都市拡大を考慮し段階的整備の提案を行った	工業地区は街の西側に配置した 都市を9つの地区に分けて、それぞれに用途を規定した 緑地は空地地区として土地利用計画に取り込まれた	アンカラ城の周辺を7つの広場で囲み城への眺望を確保した アンカラ城を文化・政治的に価値のあるものとして保護の対象とした 旧市街内の改造は数本の街路と広場の配置にとどめた
Jaussely (1928)	街路は美観・交通・都市衛生・空地など様々な機能を持つ 街路の勾配、長さや幅員を規定 中心地区の直線的な街路と、周辺地区の曲線の街路	広場は都市を装飾して美観を形成するもの 交差点内等都市全体に広場を配置 公園間の距離を規定して、公園の配置計画を行った	都市に水を供給するための水道網や、浄水システムの提案を行った 水道網を分散して配置した	都市全体を8つの地区に分けて、土地の用途及び建築物の高さ、建蔽率を指定した 主要街路に面する部分を構想に、その内側を低層にするクロウズ・システムの採用	旧市街の都市構造を残すことなくそれを一新する事を計画していた 旧市街の古い構造は土地収用をし改編しなければならない
Brix (1928)	南北方向の街路を都市軸に設定 自動車交通のためにロータリー状交差点を整備	公園緑地の目的は砂塵を防ぐこと、及び休息・運動の場を創出すること	ダムを整備して、治水を行う ダム付近に浴場、洗濯場を整備 雨水と汚水を別々に輸送する下水網を整備	アンカラ城への眺望を確保するために、建築物の高さの規制を行った 街の南西に工業地域を配置した	旧市街を破壊せずに可能な限りその固有な形態のまま保存する計画 歴史的建築物を修復

凡例: Lörcherの計画を継承したもの 新たに都市計画技術に盛り込まれたもの Lörcher計画と対立するもの

象を整えることがまず重んじられ、b)建物の形態規制によって建物の前面高さHを敷地に面する道路幅員Lによって規定している。また「古い構造を現存する状態で放置することは適当ではない。今は無理でも出来るだけ早く開発を行うことが必要である。」と述べるようにc)旧市街に対して土地収用を行い古い都市構造を改良することが目指されている。

4.3.3 Brixの計画概要⁵

Brix案はa)旧市街全体を保存の対象として手を付けないこと b)上下水道の整備および公衆浴場や洗濯場などの利水施設を建設することが主眼に置かれている。下水道の整備に関しては、Jansenと同じく雨水と汚水を別々に輸送することを計画している。首都建設コンペに参加した三者の中では彼は旧市街に対して保護主義とも分離主義とも言える立場を示しており、開発行為は新市街地区のみを対象としている。

4.4 都市計画案の比較

1924年のLörcherによる初めての首都建設計画と比較すると、1928年に開催された首都建設コンペで提出された案では、給排水システムなど以前の計画では扱われていなかった新しい都市計画技術が導入されていた。また、緑地はその機能や空間を街路や土地利用に編入されることで、街路、緑地、土地利用の計画間の相互関係が強化され、より厳格な、都市を構成する論理が構築されていたことが見て取れた【表3】。

5. 新首都建設とトルコの近代化に関する総合的考察

西洋的、近代的な国家にふさわしい首都の都市空間を整備するためにはじめられたアンカラ新首都建設は、その実行のためにアンカラ市当局を設置した。アンカラ市当局はその組織編成の過程で、都市の建設、計画策定と活動領域を拡大させる。オスマン朝期にワクフ制度によって管理されていた都市施設のうち、宗教に関連する施設は中央政府が直接管轄し、それ以外の施設は市当局が管理することになった。中央政府を頂点とする行政機構は都市空間を一元的に管理し、トルコの建国エリートらが望んだワクフ制度の解体に成功するのである。またLörcher計画を実行することによってコンペ案の選考基準に見られるような、都市を計画、整備する際の新たな理念も形成されていった。

一方空間はどのように改変されたか。Lörcherの計画案は旧市街の改変を含めて近代的な都市空間の整備を目指し、広場や整除された街路など近代的な都市をデザインする。しかし、経済的な問題や空間を扱う技術の不足によって旧市街の改良は思うように進まない。さらに土地投機の増大により無計画な都市の開発が目立つようになり、これに対処すること

が必要となった。トルコの国会議員らによって選ばれたJansenの計画は、街路の配置に際して建設費用を抑え、緑地を空地地区として土地利用計画に取り込むなど、Lörcherの計画あるいは他のコンペ参加者の案に比較してより洗練された都市計画技術に基づくものであり、当初よりもはるかに広大な近代的な都市空間を創出させることに成功する。新市街の整備はしかし、旧市街の一部を凍結保存することによって成し遂げられたのである。

近代的な都市空間の創出を目的としたアンカラ新首都建設は、その本来の目的を完全に達成することは出来なかったのだが、都市計画技術の受容を通して組織、あるいは都市の管理制度といった社会的諸制度を近代化させることに成功したといえる【図5】。

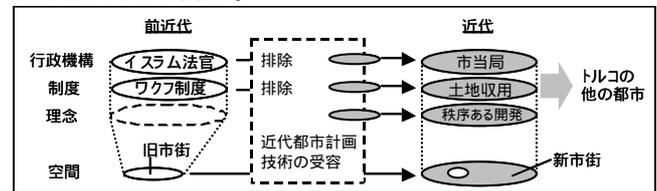


図5 アンカラ首都建設による社会の近代化

6. 結論

本研究では 当時の文献よりトルコ共和国の首都アンカラの建設過程や計画案を明らかにした。トルコは近代都市計画技術を受容することによって近代的な都市空間を整備したが、旧来の都市構造の一部は取り残された。本来の目的である空間の刷新は一部保留したものの、アンカラ新首都建設を通じて行政機構や都市管理制度の近代化に成功し、それはトルコ中の都市に分配された。

註

1. 例えは Yıldırım Yavuz(2000), "1923-1928 Ankara'ında Konut Sorunu ve Konut Gelişmesi," Tarihi İçinde Ankara 2. 例えは Basım, T.B.M.M. Basımevi, p.233-252 2. Ali Cengizkan(2004), Ankara'nın İlk Planı 1924-25 Lörcher Planı, Ankara Enstitüsü Vakfı 3. 例えは Vacit Imamoglu(1996), "A Synthesis of Muslim Faith and Secularity: The Anatolian Case," Faith and the Built Environment: Architecture and Behavior in Islamic Cultures, Vol.11 No.3-4 p.227-234 4. 例えは Jeffrey W. Cody(1996), "American planning in republican China, 1911-1937," Planning Perspectives, Vol.11 No.4, p.339-377 5. Brixの計画図面を見つけることは出来なかった。

参考文献

1) Lörcher(1924), Ankara Şehirin İmar ve İnşa Planına Aid İzahname 2) Lörcher(1925), Der neue bebauungsplan für Angora, "Wasmuth Monatsheften für Baukunst, No.20, p.25-26 3) Lörcher(1925), "Das Neue Regierungsviertel der Stadt Angora," Stadtebau Monatshefte für Stadtbaukunst Sadtisches Verkehrs=Park=und Siedlungswesen, No.20 p.144-145 4) Lörcher (1925), Türklerin Başkenti Ankara'nın İmar ve Yapılaşma Planı / Eski Şehir ve Yönetim Şehri = Çankaya 5) Ankara Şehremaneti(1929), Ankara Şehrinin Profesör M. Jausseley, Jansen ve Brix taraflarından yapılan Plan ve Projelerine ait İzahnameler 6) Jansen(1927), Ankara imarı düşüncelerini içeren rapor 7) Brix(1927), Ankara için Hazırlayacağı Gelişme Planı için Yaptığı Tedkikata dair Rapor 8) Jansen(1928), Ankara Gesamtbebauungsplan 9) Jausseley(1926), Plan dela Ville D'Angora